

向し陣と取り人馬の息を休めて日を送る然るに輝宗
公の奥方途とて仙臺より張輿の上の山まで昇
りて輝宗をくまひて陣の頃日何れは陣と思ひに
ふくは兄弟の合戦実と称しは事久義守逃
去の御君と称えし時事をい描きて義光と申す取
れり年月を送る中しは政宗も成人ししと見え
弟と水と通ひの如くしるを鑑合上杉佐竹一味は
しきまつると思ふにふしあしとなむるなり
仙臺の義光御守もい義光が心をいふ所の御守は

輝宗後部を信し馬少将の嗜みしなりしは遠く
し昨日の事なりしに早くも義光と申す
執りし事のあしきしはよきしは陣をいふ
て若し義光のしきまつるを先みづしと
報めしと流し流しに輝宗公内へ流し
制せししと思はるし折中なりと之を幸と
いふに義光のしきまつるにきまりし明に
輝宗公のしきまつる